資料３－２

復興まちづくり計画（広崎地区）

１．地区の概要

（１）位置・人口等

■位置

広崎地区は、益城町と熊本市の市町境に位置する地区で、すべての地区が九州自動車道より西側に位置しています。また、都市計画上は市街化区域に入っています。

地区内を幹線道路である県道熊本高森線が通っており、南側に広崎１町内、北側に広崎２～５町内が位置しています。

熊本市の隣町であり、生活利便性は非常に高く、益城町の行政区の中でも人口が最も多い地区です。また、県道熊本高森線沿いには医療機関や個人商店などが立地していますが、地区内のほとんどが住宅地として利用されおり、静かな住環境が確保されています。

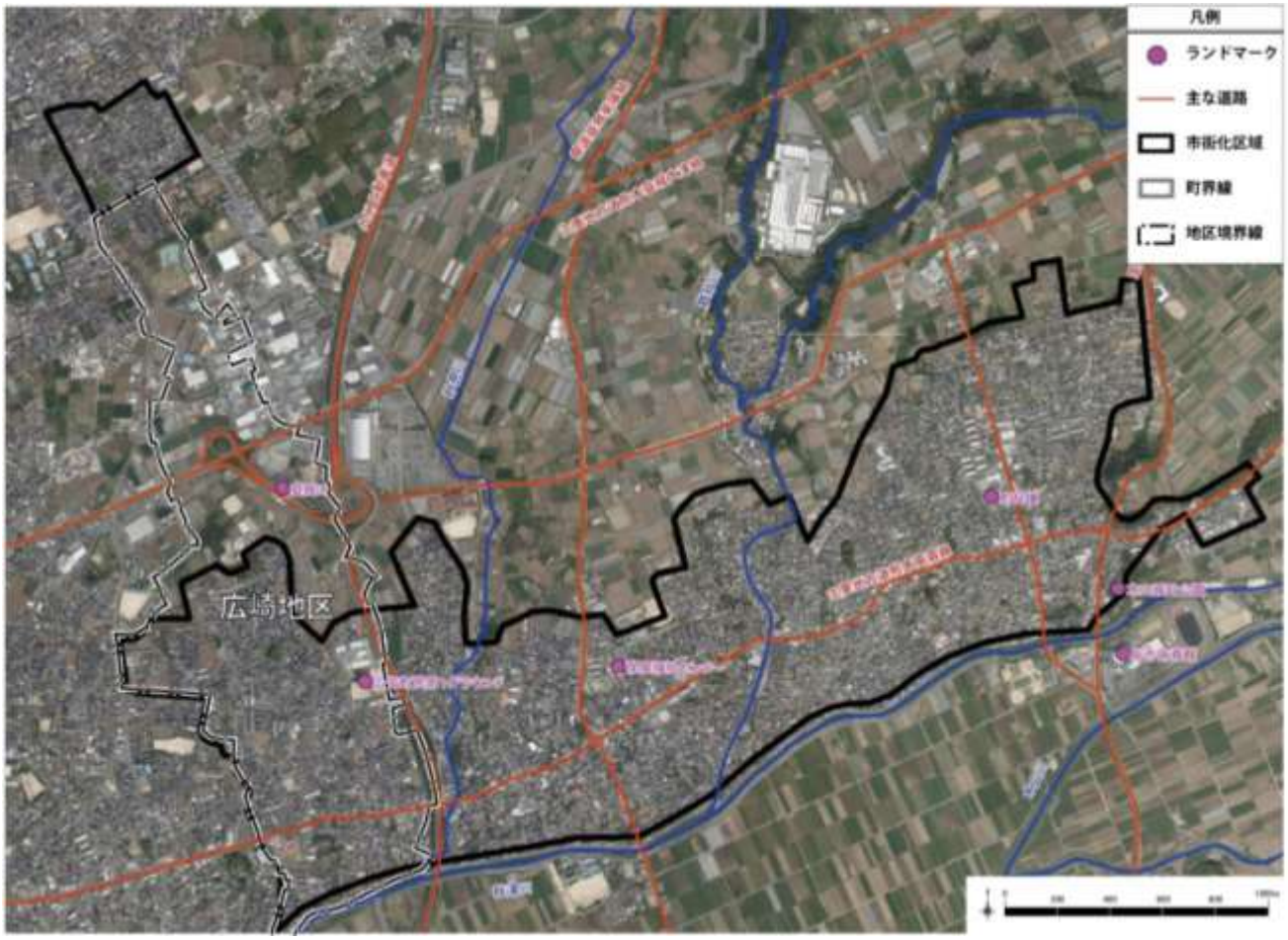

図　広崎地区

■人口等

行政区別人口表（益城町役場ＨＰより）によると、熊本地震前の広崎地区の人口は、概ね 6,300 名前後で推移し、世帯数も約 2,300 世帯でした。平成 28 年熊本地震後の調査では、人口は 193 名の減少、世帯数は 72 世帯の減少となっており、熊本地震の影響によって約 3%の人口減少となっています。

表　広崎地区の人口

	行政区	男	女	計	世帯数
平成 27 年 3 月末	広崎 1 町内	493	527	1,020	377
	広崎 2 町内	601	669	1,270	479
	広崎 3 町内	715	718	1,433	573
	広崎 4 町内	711	766	1,477	495
	広崎 5 町内	498	520	1,018	369
	計	3,018	3,200	6,218	2,293
平成 28 年 3 月末	広崎 1 町内	476	519	995	368
	広崎 2 町内	589	666	1,255	482
	広崎 3 町内	725	735	1,460	582
	広崎 4 町内	781	841	1,622	565
	広崎 5 町内	498	515	1,013	370
	計	3,069	3,276	6,345	2,367
平成 29 年 3 月末	広崎 1 町内	431	458	889	324
	広崎 2 町内	578	637	1,215	469
	広崎 3 町内	693	721	1,414	564
	広崎 4 町内	797	854	1,651	572
	広崎 5 町内	488	495	983	366
	計	2,987	3,165	6,152	2,295

（出典：益城町役場ＨＰ　行政区別人口表より）

（２）被害状況

罹災証明における家屋の被害状況によると、広崎地区では一部損壊が 1,139 棟（65.7%）と最も高い割合になっています。また、罹災証明を受けた家屋の 97.7%が一部損壊以上の被害を受けており、ほとんどの家屋が何等かの被害を受けたことになります。

広崎地区の中では、広崎 1 町内の全壊・半壊率が最も高く、他の２～５町内よりも多くの被害を受けたことがわかります。

	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	被害無し
広崎１町内	97 棟 (33%)	15 棟 (5%)	51 棟 (17%)	127 棟 (43%)	5 棟 (2%)
広崎２町内	38 棟 (10%)	23 棟 (6%)	80 棟 (22%)	221 棟 (61%)	3 棟 (1%)
広崎３町内	45 棟 (12%)	28 棟 (7%)	85 棟 (22%)	219 棟 (57%)	10 棟 (3%)
広崎４町内	4 棟 (1%)	2 棟 (1%)	32 棟 (10%)	284 棟 (87%)	5 棟 (2%)
広崎５町内	3 棟 (1%)	3 棟 (1%)	48 棟 (13%)	288 棟 (80%)	17 棟 (5%)
合　計	187 棟 (10.8%)	71 棟 (4.1%)	296 棟 (17.1%)	1139 棟 (65.7%)	40 棟 (2.3%)

（出典：益城町役場　被災状況データより）

（３）地区の課題

・平成 28 年熊本地震の影響により、人口が約３％減少した。

・地区内の多くの道路は幅員６ｍ以下で、避難の主軸となる道路が少ない。

２．避難路・避難地の計画

＜避難路＞

避難路は、主要地方道熊本高森線に接続する幅員４ｍの町道を、避難しやすく、かつ緊急車両の通行などもしやすくなるように拡幅整備します。

表　避難路・避難地の整備の概要

路線名等		整備内容		整備の内訳			概算事業費
				延長	幅員	面積	
			拡幅等	(m)	(m)	(㎡)	(千円)
A	町道府内広崎線及び府内広崎支線	地区公共施設(避難路)	拡幅	190.0	6.0		175,000
B	町道小峯広崎線	地区公共施設(避難路)	拡幅	180.0	6.0		171,000
C	町有道路	地区公共施設(避難路)	拡幅	210.0	6.0		183,000

広崎地区

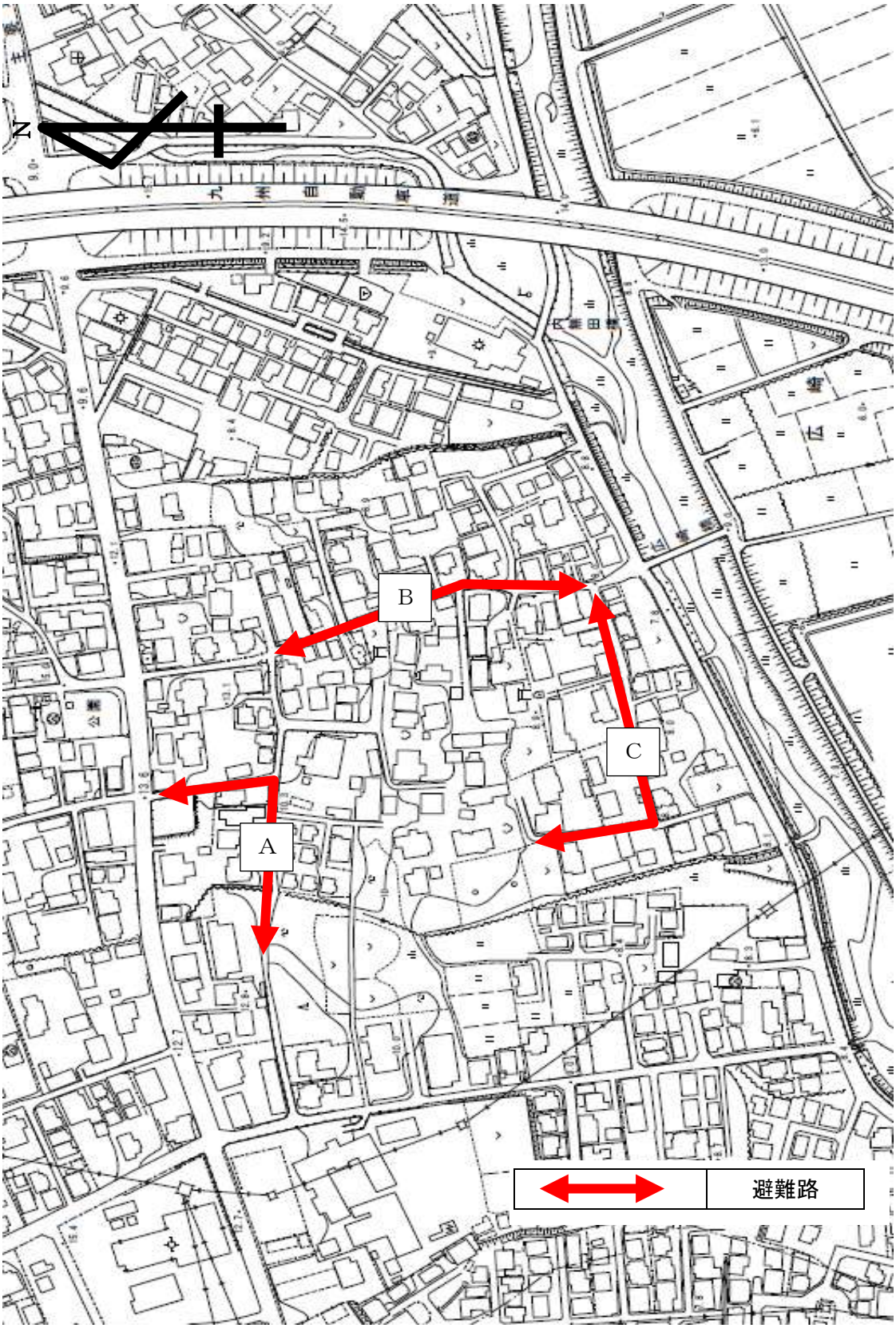

図　避難路計画図